

小学校第2学年 国語科 学習指導案

期日 平成21年9月25日（金）第5校時
場所 玉名市立玉名町小学校 2年教室
指導者 教諭 高岡 美香

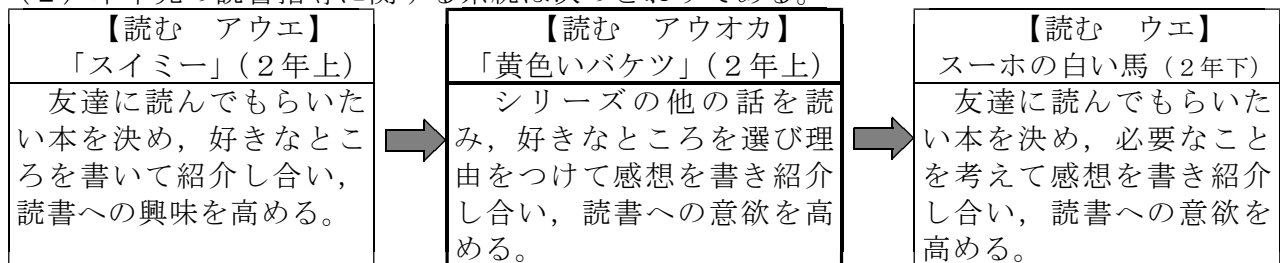
1 単元名 「黄色いバケツ」 （光村図書二年上）

2 単元について

- (1) 本単元は、小学校指導要領の目標「C読むこと(3)」を受け、内容ウ「場面の様子について、登場人物の行動を中心に広げながら読むこと」内容オ「文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと」内容カ「楽しんだり知識を得たりするために、本や文章を選んで読むこと」をねらいとしている。本単元においては、読解及び音読指導とともに単元全体で、読書力の育成に視点を置いた言語活動を設定した。

本教材文「黄色いバケツ」は、きつねの子が黄色いバケツに思いを寄せ、自分の物にはならないがきつねの子にとってかけがえのない宝物となる話である。情景や心情が豊かに描かれ、場面の様子や登場人物の気持ちを想像を広げながら読むのに適した教材であり、他の様々な本を読むきっかけとなることが期待できると考える。「黄色いバケツ」の作者である森山京さんは、他にもきつねの子を中心とした作品を多く書いており、これらの多くを進んで読む体験をさせたい。今回は「つりばしゆらゆら」一冊の本に絞って感想を交流する中で感想の書き方やとらえる場面の友達との違いに気付かせたい。

- (2) 本単元の読書指導に関する系統は次のとおりである。



- (3) 本単元に係る児童の実態は次のとおりである。

○本学級は、男子16名、女子17名、計33名である。学級全体としては学習意欲が高いが、読んだり書いたりすることには個人差が大きく個別指導を必要とする児童が4名いる。読書が好きな児童が多く、「とても好き、だいたい好き」と答えた児童が31名で、「あまり好きではない、きらい」と答えた児童が2名であった。「きらい」と答えた児童は読み聞かせは好きであるが、読むことが苦手なため「読むことが面倒」という理由である。4月から7月までに読んだ本の冊数は次の通りである。

①20冊未満	11名	②20冊～30冊	8名
③30冊～40冊	8名	④40冊～50冊	6名

- 読む本の種類については、「絵本や物語・自然や科学の本」が多い。本の決め方としては、題名で選ぶことが一番多いが、学習した物語文の作者の紹介をしたり、友達のおすすめの本の紹介文を教室に掲示したりすることで、ジャンルも図鑑や科学的な読み物が加わって少しずつ広がってきている。
- 感想を書くことについては、好きなところを選びそのわけまで全員書くことはできるが主題に迫り感想が書けるのは、10名である。
- 児童が書いた紹介文は教室に掲示し、自由に読めるようにしているので友達の書いた紹介文を読んで本を選ぶ児童も少しずつ増えてきている。紹介文を発表し合う活動はこれまでも経験してきているが伝え合う程度で、感想の内容に触れて言葉を返すことはまだできない。

(4) 読書指導にあたっては、次の点に留意する。

【読書への関心・意欲・態度を育てる視点】

- 森山京の作品の読み聞かせ、読書クイズ、ブックトークをして、読書意欲を高める。
- 森山京の作品を準備し読書環境を整え、読書ビンゴカードを使って進んで読書ができるようにする。また、本を選んだり読んだりする時間を十分に取り、必要に応じて一緒に読んだり助言したりしていく。
- お話の続きを想像しながら読む活動を取り入れることで、「読んでみたい。」という期待感や必要感を高める。
- 今後の読書活動を広げるために、おすすめの本の紹介文や主人公への手紙は教室に掲示し、その本を読んだ友達の一言感想も貼っていく。

【本や文章を選ぶ力を育てる視点】

- 自分の考えをまとめるために、文章の中で大事になる言葉や本や文章を読んで心に残った言葉を書き抜くようにする。
- 主人公への手紙を発表し合うときは、聞く時のポイント（①自分との違い②新たな気付き）を明確にし、場面の選び方やいろいろな感じ方があることに気付かせていきたい。

【読んで考え生かす力を育てる視点】

- 文章を焦点化して感想（主人公への手紙）が書けるように、手紙交流のために読む本は意図的に選んでおく。（つりばしゆらゆら）
- 感想（主人公への手紙）の書き方のポイント（①好きなところを選ぶ②そのわけを書く）を明らかにし、書き方は活用しやすいようにヒントカードとして教室に常時掲示しておく。
- 手紙を書く際に、これまでの経験と文章の内容を結び付けて考えをまとめられるような視点を与える。

【人権教育の視点】

- 言葉に着目しながら読み進め、豊かに想像したり、自分の感じたことを自分の言葉で表現したりできるようにする。
- 友達の多様な感じ方や表現の仕方に触れ、一人一人のよさを認め合う態度を育てる。

3 単元の目標と評価規準（＊は、読書指導に関する言語活動の評価規準）

単元の目標	◎場面の様子について想像を広げ、語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて、声に出して読むことができる。 ＊森山京の作品を読み、感想(主人公への手紙)を書き理由を付けて、友達に紹介し合う活動を通して、いろいろな感じ方があることに気付くことができる。
読むことへの関心・意欲・態度	＊読み聞かせを聞いたり紹介されたりした易しい読み物を楽しんで読んでいる。
話す・聞く能力	＊読んだ本の中から、心に残ったこと(好きなところ)を選び手紙を書いて友達に紹介し、返事を返すことができる。
読む能力	◎場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げて読み、きつねの子の気持ちを考えることができる。 ◎好きな場面を選び読み方を工夫して音読することができる。 ＊本を読んで、好きな場面を選び主人公へ手紙を書くことができる。 ＊主人公への手紙を紹介し合い、いろいろな感じ方があることに気付くことができる。

4 指導・評価の計画 (10時間取り扱い 本時10/10)

次	時	学習活動	指導上の留意点 * 言語活動とその留意点	評価項目 (方法)
1	1 ・ 2 ・ 3	○きつねの子の気持ちの変化を読む。	* きつねの子の気持ちの変化を想像を広げながら読ませるようにする。	【読むこと】 きつねの子の気持ちを考え吹き出しに書くことができる。 (シート)
	4 ・ 5	○全文を読み、好きな場面を選んで書き写し、理由を書く。	* 全文を読んで、好きな文章を選び書き写させるとともに、その文章を選んだ理由を書かせる。	【読むこと】 心に残った言葉や文章を書き写し、選んだ理由を書くことができる。 (ノート・観察)
2	6	○自分の選んだ文章が入った場面について友達と一緒に音読の練習をする。	・ 互いにアドバイスをしながら練習できるように同じ場面を選んだ児童でグループ(4人)を作るようにする。	【読むこと】 声の大小、読む速さ、間の取り方、表情などに気を付けて音読の練習をすることができる。 (観察・発言)
	7	○音読発表会をする。	・ 友達のよいところを見つけて感想を伝え合うようにする。	【読むこと】 声の大小、読む速さ、間の取り方、表情などに気を付けて工夫しながら音読することができる。 (観察・発表)
3	8	○森山京の他の作品から、自分の好きな本を選んで紹介する。	* 第1次からできるだけたくさん作品を読むようにし読書ビンゴカードに記録した本の中から好きな本を選んで紹介カードを書かせ紹介させる。	【読むこと】 森山京の作品から好きな本を選んで、好きなところとその理由を書き紹介することができる。 (観察・シート・発表)
	9	○「つりばしゆらゆら」を読んで、きつねの子へ手紙を書く。	* 「つりばしゆらゆら」の中の好きな場面や文章について、きつねの子へ手紙を書かせる。	【読むこと】 本を読んで好きなところを選び、きつねの子へ手紙を書くことができる。 (シート)
	10 本時	○選んだ場面ときつねの子へ書いた手紙を紹介し合ったり、話の続きを考えたりする。	* 発表を聞く視点を明確にして交流させることで、自分と違った感じ方があることに気付かせる。	【読むこと】 手紙を紹介し合い、場面の選び方や理由の違いに気づき、感想を広げることができる。 (シート・発表・観察) 【関心・意欲・態度】 話の続きを考え読書意欲を高めることができる。

5 本時の学習活動

- (1) 目標 ○感想（きつねの子へ書いた手紙）を紹介し合い、場面の選び方や理由の違いに気づき、感想を広げることができる。
○話の続きを考え読書意欲を高めることができる。

(2) 展開

過程	学習活動【学習形態】	徹底能動	主な発問・指示等	教師の指導及び評価	備考
導入 10分	1 「つりばしゆらゆら」の粗筋を振り返る。 2 本時のめあてをつかむ。	徹底	T みんなが持っているカードを順番に並べてみましょう。 T 今日のめあてを読みましょう。	○アニメーション（作戦番号12）で楽しく話の筋を振り返られるようにする。 ○本時のめあてを確認させる。	絵本カード
きつねの子へのお手紙をしょうかいし合って、かんじたことをはっぴょうしよう。					
展開 33分	3 きつねの子へ書いたお手紙を発表し合う。 【一斉】 一の場面 二の場面 三の場面	能動	T きつねの子へ書いたお手紙を紹介し合いましょう。友達は、どの場面を選んでどんなことを書いたのでしょうか。聞くときのポイントに沿って考えながら聞いてください。	○選んだ場面を明確にするため氏名カードを場面ごとにはり手紙の内容を簡潔に板書する。 ○共感的な態度で聞くような言葉掛けをする。 ○聞くときのポイントを示す。 ①自分との違い。 ②なるほどと思った手紙はどれか。	氏名カード
	4 友達の手紙を聞いて感じたことを書いて発表し合う。	徹底能動	T 友達の手紙を聞き、気付いたことや感じたことを書いて発表しましょう。 C 友達と同じ場面だな。でも、きつねさんへの言葉が違うな。 C ほかの場面でもきつねさんへのお手紙を書けるんだな。 C この場面ではきつねさんはこんな気持ちだったんだ。気付かなかったな。	○聞くときのポイントを示した学習シートに書かせる。 ○一人一人の感じ方を認めるとともに、主題に迫る場面の選び方についても触れる。 ○書く時間を十分にとるが書き進められない子には、ヒントカードや板書の言葉を参考に書くようにする。 評価 B：なるほどと思う手紙を探すことができる。 【学習シート】 A：友達と自分との違いに着目し、なるほどと思った理由を付け感想を広げて書いている。【学習シート】	学習シート ヒントカード
	5 「つりばしゆらゆら」の話の続きを考える。 【一斉】	能動	T この後きつねの子はどうしたのでしょうか。 C つり橋を渡って女の子に会えた。 C とうとう会えなかった。	○自由に想像を広げさせる。 ○このお話の続きがあることを伝え、「あのこにあえた」の一部を紹介し、今後の読書意欲につなげる。	絵本
終末 2分	6 学習のまとめをする。	徹底	T 「あのこにあえた」もぜひ読んでみて下さい。	○読書意欲を高め、学習のまとめをする。	自己評価シート

